

氏名	松本裕子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5441号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	骨盤臓器脱に対するTVM手術前後の性機能に関する検討
論文審査委員	教授 平松祐司 教授 木股敬裕 教授 難波祐三郎

学位論文内容の要旨

骨盤臓器脱 (POP) は、骨盤臓器のヘルニアの総称であり、近年増加傾向にある。POP は、骨盤底を支持する骨盤底筋群や、周囲結合組織の脆弱化が原因で発症すると考えられている。POP症状の1つに性交痛、陰茎挿入困難などの性機能障害がある。治療には骨盤底筋体操、薬物治療などの保存的治療と外科的治療があり、自覚症状が強い場合に外科的治療を選択することが多い。外科的治療には多くの術式があるが、TVM手術はtotal repairという概念に基づいており、2005年に本邦に導入され、標準的な術式となっている。

岡山大学病院および岡山労災病院で、2007年4月から2009年3月までに同意の得られた42例に対し、TVM手術前後の性機能について、性機能質問紙 (FSFI) を用いて前向き研究を行った。性的興奮、膣潤滑、オルガズム、FSFIトータルスコアの各項目は、術前に比して、術後3ヶ月、6ヶ月目と改善傾向にあり、12ヶ月時点で有意に数値の改善を認めた。TVM手術により解剖学的修復のみならず、性機能の改善も期待できると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、高齢化社会において増加している骨盤臓器脱 (POP) に対し、近年普及してきた TVM 手術で治療した症例について、手術前後の性機能の変化を性機能質問紙 (FSFI) を用いて前方視的に検討した研究である。その結果6カテゴリーの内、性的興奮、膣潤滑、オルガズム、FSFI トータルスコアの各項目は、術前に比較し、術後3ヶ月、6ヶ月と改善傾向にあり、12ヶ月後には有意な改善を認めたことを報告した。

POP は骨盤臓器のヘルニアであり、分娩経験者に多く発生するが、本知見は平均寿命がのび高齢者が増えたわが国において、老後の QOL 改善にも結びつく意義ある研究である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。